

にぎわい

—日本海にぎわい・交流海道ネットワーク通信—

会員だより

西の太陽ひとりじめ

夕陽へは「渚の地下道^{ちかみち}」で

日本海に沈む夕陽を眺めることができる西海岸“夕陽海岸ふかうら”の一角に、2000年夏、新たな名所が誕生しました。海水浴場からの緊急避難路であるトンネル「渚の地下道(ちかみち)」の開通式が平成12年7月13日に行われました。

深浦町は、延長が南北約40kmにわたる長大な海岸線を有し、‘深浦海岸’として雄大な海岸景観を有する景勝地を連ね、津軽国定公園に指定されており、シーズンには県内外から多くの観光客が訪れています。

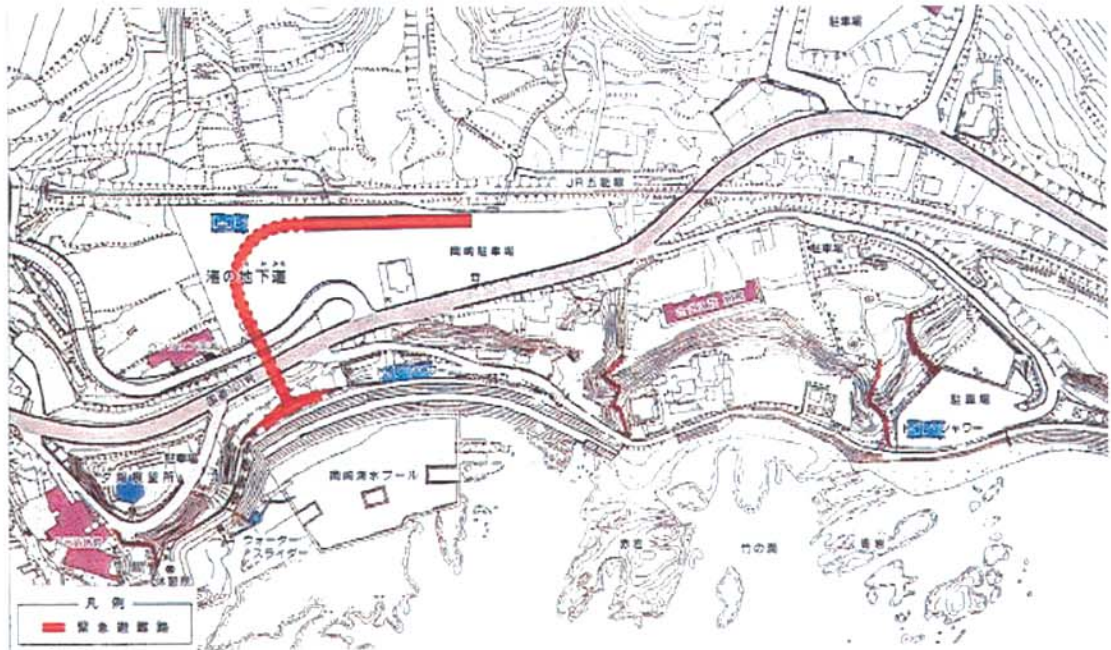
岡崎海岸一体は、日本海の荒波によってつくられた岩礁地帯であるため、海岸の背後が崖地となっており、地震などによる津波の襲来時には緊急に背後の高台まで避難しなければならない地形となっています。1983年の日本海中部地震では大規模な津波が発生し、地震・津波による危険性が認識され、沿岸住民及び海岸利用者のかけがえのない生命を守るため、緊急時の避難路確保が求められていました。



深浦港位置図



このため、海岸と高台にある駐車場を結ぶ避難路としてのトンネル「渚の地下道（ちかみち）」、情報伝達システムとしてスピーカーと誘導板が設置されることになり、緊急時においては利用者を迅速かつ安全に避難誘導することが可能となったのです。



岡崎海岸平面図

緊急防災施設の概要は、

トンネル L=151.0m

擁壁 L= 59.0m

電気設備 N=1 式

情報伝達設備 N=1 式

となっています。昭和 61 年度より海岸環境整備事業として護岸・遊歩道が着手し、平成 8 年度までにキャンプ場や駐車場、海水プールや遊泳施設など一部の遊歩道を除く海岸環境施設が整備され供用を開始しております。



海側トンネル出入口

平成 8 年度からは緊急防災施設に着手し、海岸利用の安全の向上を目的とした緊急時の避難路トンネルや情報伝達施設などの整備が行われました。

「渚の地下道（ちかみち）」の完成により高台にある駐車場からのアクセスも向上されて、暑かった今年の夏も多くの海水浴客でにぎわいをみせていました。また、周辺一帯は海水浴だけでなく、史跡や景勝地、さらに、滞在型海洋性レ

クリエーション施設の充実に伴い、青森県の日本海側の観光拠点として期待されております。



海水浴利用状況



水平線のかなたに沈む夕陽が
目に浮かぶようです

これからの紅葉シーズン、世界自然遺産として登録されている「白神山地」を背にして沖に目を向けると、そこには紅葉に負けないくらい燃えるような夕陽を眺めることができる町、それが我が深浦町です。

(青森県深浦町建設課 赤平)

世界遺産「白神山地」

白神山地は、青森県南西部から秋田県北西部にまたがる130,000haに及ぶ広大な山地帯の総称です。このうち原生的なブナ林で占められている区域16,971haが1993年12月に世界遺産として登録されました。

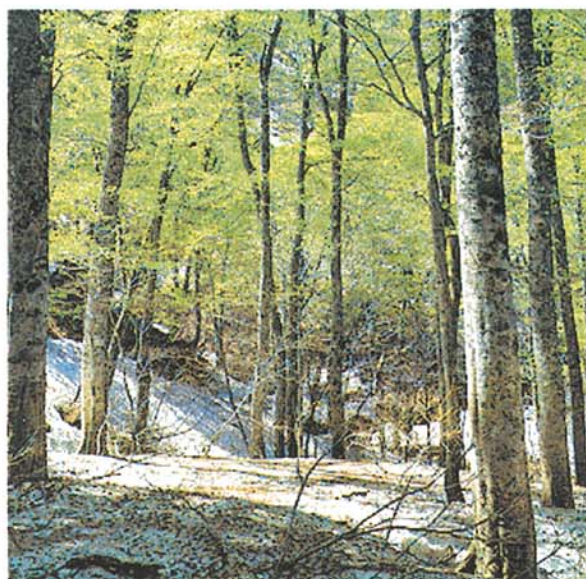
青森県側の面積は、その約4分の3を占め、12,627haとなっています。白神山地の地質は、およそ9,000万年前頃（白亜紀）にできた花崗岩を基盤に、2,000万年前～1,200万年前頃（新第三紀中新世）の堆積岩（凝灰岩、泥岩、砂岩）とそれを貫く貫入岩類（地下の深いところからマグマが上昇してできる岩。流紋岩、石英閃緑岩等）で構成されています。

地形の特徴は、深い谷が入り組んでいて、谷壁が急傾斜をなすため、落差の大きな滝も数多く、景観にも優れています。白神山地の特徴は、人為の影響を



ほとんど受けていない原生的なブナ天然林が世界最大級の規模で分布していることにあります。

また、このブナ天然林には、ブナ・ミズナラ群落、サワグルミ群落等をはじめ多種多様な植物が生育し、高緯度にもかかわらず、ツキノワグマ、ニホンザル、クマゲラ、イヌワシ等をはじめ非常に多くの動物が生息し、白神山地全体が森林博物館的景観を呈しています。



特に世界遺産地域は、最も良く原生状態が保たれており、その価値は、地球的に見ても極めて重要であると評価されています。

ブナ林は、動物の餌となる植物が多く、他の森林に比較して豊富な動物が生息しているほか、水源涵養機能や地表侵食防止機能なども高いのが特徴です。このような多面的な機能や美しさは、近年日本でも高く評価されるようになっていきます。

編集後記

今回の発行で「日本海にぎわい・交流海道ネットワーク」として当建設局では最後の参加となり、今後事務局は東北地方整備局へと移管されます。省庁再編という大きな流れに会いながらも今後交流が盛んになっていくであろう日本海ネットワークを、東北という新しい枠組みの中、自然豊かで未来ある地域と共に、心機一転、新たな切り口で情報を発見・発信していきたいと思えます。

日本海にぎわい・交流海道ネットワーク 事務局
第二港湾建設局 海域環境課

TEL 045-211-7427
FAX 045-211-0204